

みどりの樹

第13号

2002. 秋



— 附属博物館収蔵品④ —

山形県下

眼鏡橋上真景

明治十四年 長谷川竹葉
彩色版画 三五cm×二四cm

これは、現山形上山線、旧羽州街道片谷地(坂巻)地内を流れる須川に架かる常磐橋で、県下の名所として、書店八文字屋が竹葉に描かせ売り出したものである。江戸時代までは、渡し舟に頼っていたこの地に、明治十一年、時の県令三島通庸が永久橋としての石橋を架け、その珍しい形と雄大さは「坂巻の眼鏡橋」として、近郷近在からの見物人で賑わったという。川岸で馬を休ませる人夫、橋上を行き交う馬車や人、たもと茶屋らしき建物、当時の賑わいが良く描かれている。架橋の年に山形を訪れた英国の女性探検家イザベラ・バードは「私は初めて近代日本の堅固な建築―すばらしく立派な石橋―を見た」と日本輿地紀行に記している。

名所として賑わいをみせた橋も明治二十三年の豪雨で流失、その後何度も架け替えられ、現在は昭和四十六年の架橋である。画面上部の右手には山形大学医学部、左手には大型店ができ、この地も大きく様変わりしている。

(山形大学附属博物館長 中川 重)

遠くを見つめながら歩く

山形大学長 仙道 富士郎



せんだう ふじろう

山形大学長
専門：免疫学

て構成されています。大学以外から見ればたいしたこととも思われぬこのような措置も、大学にとつては一大決心を要したわけで、こんなことから考えても、従来の大学がいかに社会から隔絶されたところに位置していたかが、分かろうかというものかもしれません。

少子化と、高学歴社会の到来に伴って、五十%以上の人達が大学に進学する時代を迎えたこと、我が国の右肩上がりの経済が終わりを告げたために、政府が大学のために支出する予算にも一定の制約が必要になったこと等々、種々の状況の変化を受けて、大学も変わらなければならぬ時代になったと受けとめるべきかもしれません。

受け身的な考え方からは、いま申しあげたような結論になってしまうのですが、考え方を一転させると、各々の大学は法人化に伴ってその裁量権が増すことから、新しく生まれ変わるまたないチャンスであるとも言えましょう。経済の先行きも明るく

く、政治不信の横溢する今だからこそ、ただ鬱々と下を向いているのではなく、すつくと前を向いて歩いた方が良く思うのですが、いかがでしょうか。

このような視点に立って大学の改革を考えると、山積する具体的な問題に対応していくためには、足元を見つめながら歩いていかなければならないのは当然ですが、解決しなければならぬ問題の量の多さに圧倒されて、足元ばかりを見ているような気がしてなりません。

少しきざな言い方で恐縮ですが、どんなに時代は変わろうとも、大学の本質は真理の探究と、後から生まれた者達に対するその産物の伝受であることに変わりはあるはずがないと思います。そして、それらのことを成就するためには、近視眼に陥ってしまったその目を、いま一度はるかな山並みに向けて、ゆったりと物事を考え直してみる必要があるように思えてなりません。そうした所作なしに、いまの“大学の改革”を近視眼的に続けるならば、四十年、五十年あとに後輩達がこの平成教育改革をどう評価するか、大きな疑問が残るところです。

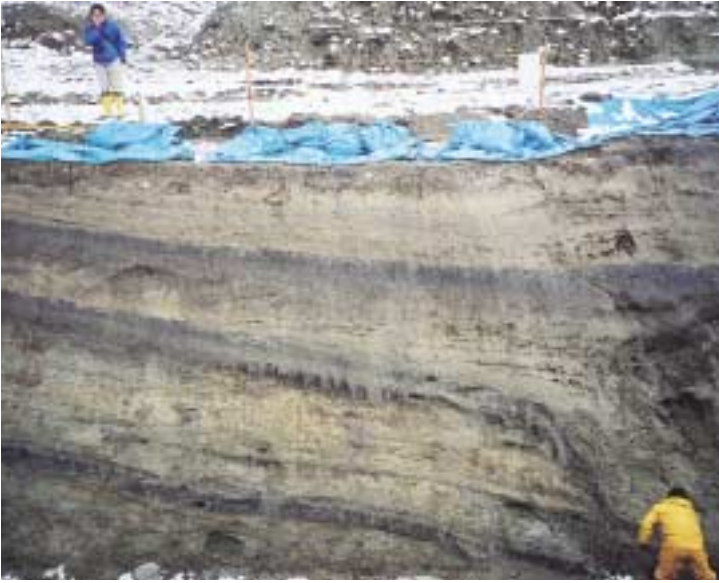
俳人山頭火は「分け入っても分け入っても青い山」という句を残しています。凡夫にはその真の感覚は分かろうはずありませんが、何かしらすすがしい気持ちにさせられます。そんなことを大事にして歩いていきたいと思っています。

皆様よくご存じのように、大学はいま未曾有の変革の波に洗われております。我が国の国立大学は、平成十六年度からは政府機関の一つではなくなり、独立法人に生まれ変わります。山形大学においても、学長を委員長とする「法人化検討委員会」を設置して、その対応に務めております。なにしろ大学の組織、人事システムなどが従来とは全く異なったものになってしまつたのですから、その変化に対応するために要する人的エネルギーは膨大なものになってまいります。この問題を解決するための一助として、前記の委員会は教官だけでなく、事務官も加わっ

「地震国日本」のなかの山形

長谷見 晶子

今年の四月からの授業で、一年生を対象に「地震のはなし地球環境学」という科目を担当しました。受講した百名ほどの学生にこれまで体験した最大の震度を訊いてみたところ、半数が「震度4」以上を経験しており、「震度6」という学生も三名いました。「震度4」ともなるとかなりの恐怖を感じます。それを体験した学生が多いことに、日本は「地震国」として改めて感じました。



山形盆地西縁断層の調査。断層を横切って溝を掘り、地層を観察する。

その日本の中でも、曰く、地震が多く起こるのは太平洋側で、日本海側はそれに比べると地震の数も揺れを感じる回数も少ないという、地域的な違いがあります。各地の気象台や測候所で地震の揺れを感じた回数を調べた資料によりますと、山形県の酒田や山形では年平均にして五・六回で、仙台の二十回、福島の四十回に対してずっと少なくなっています。曰く、揺れを感じる機会が少なく、つい忘れがちですが、山形県内でも過去に大きな地震が発生しています。一八九四年（明治二十七年）には庄内地方で、「マグニチュード7.0」の「庄内地震」が発生しました。庄内平野では「震度7」の揺れとなり、人的被害も多く、七百二十六名が亡くなりました。

県の内陸部では、「マグニチュード6」よりも規模の大きい地震があったことは、歴史上、知られていません。しかし、内陸でも数千年の間隔で大きな地震が繰り返して発生してきた証拠が地形や地層の中に残されています。そのような地形や地層を調べることと、たとえば大石田から上山にかけて盆地の西縁に地震を起こす可能性のある活断層（山形盆地西縁断層）が走っていることが明らかになっています。山形県や山形大学などの研究者がこの断層について調査してきました。それらの結果をふまえて、今年の五月に国の地震調査委員会が、山形盆地西縁断

層が地震を発生させる間隔はおよそ三千年、今後三十年間に地震が発生する確率〇〜七%、という判断を公表しました。数千年間隔で起きる自然現象を予測する難しさを反映して、示された数値はかなり幅を持っている。楽観的な人なら〇パーセントを信じるかも知れませんが、やはり、せつかくの情報は活かすことにして、活断層の存在を念頭に置いて暮らすほうがよいでしょう。

山形市の西方で一九九七年の二月頃から十二月頃まで、小さな地震が断続的に発生したことがあります。地震活動は周期的に活発になり、どういふわけか奇数月に地震が多く、三月、七月、九月には「震度1」の体を感じる地震もありました。地震が起きたのは、山形盆地西縁断層の付近で十kmくらいの深さのところ。地震が起き始めてから、学科の学生、東北大学、防災科学技術研究所が共同して臨時の観測点を付近の四力所に設置しました。この観測で、地震の震源が断層線の方向にきれいに並んでいることがわかりました。このような震源位置のデータをこれから増やしていけば、この断層が地下でどのような形をしているか、だんだんと分かってくるのではないかと考えています。



はせみ あきこ

山形大学理学部教授
専門：地震学

かみ合わせの異常を改善する 顎矯正手術と歯科矯正治療

吉澤 信夫



よしざわ のぶお

山形大学医学部教授
専門：歯科口腔外科学

◆歯科口腔外科とはどんなことをするのですか？

いわゆる虫歯や歯槽膿漏しよくのうろうなどで歯医者さんのお世話になった方は多いと思います。

街でよく見かける歯科医院には、皆さんの多くが虫歯や歯槽膿漏の治療をしたり、銀歯をかぶせたり入れ歯を入れたりするところというイメージをお持ちではありませんか。場合によっては歯を抜かれるかもしれないので、歯医者さんに行くのはこわいと思っておられるかもしれません。

わたしたち歯科口腔外科では、そのような歯医者さんの仕事の他に、顎あごの骨折を治す手術や、顎の関節が痛むとか口が開かない人の治療などのほか、口の中に発生する癌や粘膜の病気など様々な病気の治療をしています。

◆かみ合わせの異常は治せますか？

さて「受け口」や「出っ歯」、「乱杭歯らんかうし」などのかみ合わせの異常でお悩みの方は、結構いらっしゃるのではないのでしょうか？ そして針金やバネを歯に取り付けて歯ならびを治す、「歯科矯正治療」をご存知の方や矯正歯科専門の歯科医院などで実際に治療を体験なさった方もおられるでしょう。

特にかみ合わせの異常の程度が高く、通常の歯科矯正治療では治しきれない様な場合には、手術によって顎の骨を出したり引っ込めたり、あるいは角度を変えたりして修正する、「顎矯正手術あごきようじゅじゆ」を行って正しいかみ合わせに治すことが可能です。

わたしたち歯科口腔外科ではそのような手術も多数行っており、最近では年間三十人以上の方々が手術を受けています。

この手術を行う時期は、成長・発育が終る高校生から大学生にあたる年代が最も多いのですが、二十歳台や三十歳台でも十分可能です。通常、針金やバネを使用した歯科矯正治療を一年から二年くらい行い、手術後に良いかみ合わせになるように歯ならびを調整します。これを術前矯正治療といいます。その後には顎矯正手術を行います。およそ二週間から三週間の入院となります。最近では、手術前や手術

後の処置や管理を検討・改善することによって、十日間余りで退院できる場合も多くなってきました。手術の後には、しばらく術後矯正治療を行うことによって歯ならびの仕上げをします。



初診時



術前矯正治療終了時

写真1 受け口(下顎前突症)の口腔写真①



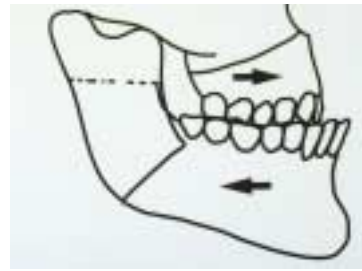
手術後



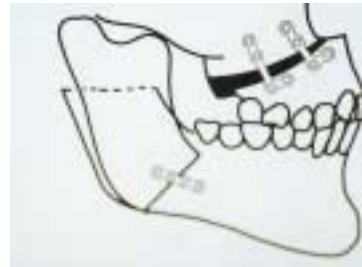
治療終了時

写真2 受け口(下顎前突症)の口腔写真②

◆手術によってどんなメリットが有りますか？
 食物をかむことを咀嚼そくかくといいます。この咀嚼や発音はつおんが改善されて、食べ物より良く食べることができようになる、また発音も明瞭めいりょうになります。また顔貌がんぼうといいますが、顔の容ほつともよくなりますので、



手術前



手術後

写真3 下顎枝矢状分割術と上顎骨切術の模式図



チタン製ミニプレート・スクリュー (ネジ)



吸収性PLLAミニプレート・スクリュー (ネジ)

写真4 骨片固定用ミニプレート・スクリュー (ネジ)

結果として自信がついて社会的な適応性が増すので、より良い生活を得ることが出来ます。
 この手術を受けられる方は女性が多く、容ほつ改善には大きな意義があるといえましょう。

◆骨の固定はどのようにするのですか？

たとえば受け口（下顎前突かあぐせんとつといいます）の場合には、下あごを引込める（後退させる）手術である下顎枝矢状分割術がくしじょうぶつぎゅつが行われることが多く、当科ではチタン製のミニプレート一本（両側で二本）と固定用ネジを用いて骨を固定します。この他にチタン製の骨貫通ネジ三本（両側で六本）で固定する方法も多く用いられています。これらの切った骨を固定する装置は、切った骨が癒合して治ると手術後半年から一年くらいのうちに取り出す手術をします。このときは三日間程度の入院となります。

最近では、ポリ-L-乳酸（PLLA）を素材とした、吸収性の骨片接合材（ミニプレート）と吸収性のネジを用いて、骨を固定することも可能となりました。この材料を用いた手術方法の場合には、骨が治った後およそ三年程度で溶けてなくなりますから後で取り出す手術の必要はなく一回の手術で済みます。この材料は、顎の骨折の手術にもよく使用されています。

◆保険で治療できるのですか？

入院や手術については保険でできます。術前・術後の歯科矯正治療については、一定の条件を満たして届出をした矯正歯科専門医であれば、保険で行うことができるようになりました。このような治療を希望される方や、歯ならびの異常が気になっておら

れる方は、当科の外来を受診されるか、あるいはお近くの矯正歯科専門医にご相談ください。

山形大学医学部附属病院 「歯科口腔外科」診療のご案内

診療曜日：月曜～金曜

休診日：土曜、日曜、祝祭日（休日・夜間の急患応需）

初診受付時間：午前8時30分～午前11時まで

（以降も急患は受診出来ます。再診では午後の診察も可能です。）

診療内容：顎関節症、顎変形症、唇顎口蓋裂、顎顔面補綴、口腔乾燥症、口臭症、顎口腔腫瘍、顎口腔嚢胞、重症炎症、顎顔面痛、舌痛症、埋伏歯などの難抜歯、周術期口腔管理外来など

食

PART 2

ロシアの別荘と
食糧事情のシニールな関係

中村 唯史



なかむら ただし

山形大学人文学部助教授
専門：ロシア文学

昨年、シベリアの鉄道員たちが、給与の未払いに抗議してストライキを起こしました。その様子は日本のテレビでも報道されましたが、車掌であるという女性が「私たちは国のためを思えばこそ、十八ヶ月ものあいだ給料をもらえなくても働いてきた。だがかもう忍耐も限界だ」と怒りに震える声でインタビューに答えていました（ロシアでは鉄道関係者はまだ国家公務員です）。なるほど一年半も給料が出なければ、堪忍袋の緒が切れるのも当然です。

けれども考えてみると、これはかなりふしぎな光景です。社会主義時代のロシアには蓄財という発想は希薄でしたし、ソ連崩壊後は公務員の給料はしばしば滞っていましたから、彼らに十分な貯金があったとは思われません。このような状態で、もし日本の社会で十八ヶ月も給与が支払われなければ、ひとは怒りに震えスト集会へ行く前に、栄養失調になりあの世へ行くでしょう。ところがテレビに映った鉄道員やその家族は、みな血色も良く健康に日焼けし、



栄養状態も良さそうでした。彼らは一年半のあいだ、どうやって食糧を入手していたのでしょうか。

ロシア人の大部分は「別荘」を所有しています。都会には一戸建ての家はなく、市民はみな高層住宅に住んでいます。彼らはその他にも近郊に一ヘクタール程度の土地と「ダーチャ」と呼ばれる家を持っているのです。

ダーチャは便宜的に「別荘」と訳されることが多いのですが、これは適切な訳語とはいえません。ロシアの人たちは三十歳を過ぎると、だいたい年収の半分程度の金額で土地を入手し、週末に出かけてはその



1991年、仲間がダーチャから食物を持ち寄ったの宴席。当時はソ連の崩壊期で、モスクワの店には腐ったキャベツしか置いてなかった。

土地を耕して菜園を作ります。またどこからレンガや木材を調達し、数年かけて自分で家を建てます。ダーチャとは、このように文字どおり手作りの、週末の住居にも収穫した食糧の倉庫にもなるような家のことなのです。

ダーチャの家庭菜園は、以前は趣味程度のもので

したが、ペレストロイカで流通事情が悪化するにつれて本格的になりました。人々はジャガイモやキャベツ、トマトといった基本的な野菜を栽培し、鶏や、ときには豚、牛さえも飼うようになりました（家畜を飼うときには退職したおじいさんおばあさんの出番です）。やがて友人や親戚の間に一種の分業体制が生じ、自家製の食糧をたがいに交換するシステムができあがりました。現在ではロシア人が口にする食べ物のごとくに六五%がダーチャで生産されています。シベリアの鉄道員が給料もなしに一年半持ちこたえたのは、彼らの食生活が、公の市場からは自立した、独自の生産・流通システムに基づいていたからです。もちろん奢侈品を入手するには現金が必要で、だからこそ彼らの堪忍袋の尾は切れたのですが、しかし食と住の基本を自身の手に握っている彼らは、たとえロシアという国が減んでも、自分達の生活を続けることができます。

土仕事の大好きなロシアの人達は、口では何ののかんと言いながらも、趣味と実益とを兼ねて、ダーチャでの労働をけっこう楽しんでるようです。現金収入が少ない一方で広大な土地を所有し、奢侈品には縁遠いけれども口にするすべてが自然食品であるこのような生活を、私たちの尺度で貧しいとか豊かだとか判断するのは、意外に難しいことです。

授業にもドラマがある

学生主体型授業

「自分を創る(表現工房の試み)」

「もう私が安楽死しなくなってきた」。七月初旬、一人の女子学生が私にあっけらかんと冗談を言い、それからいついかに微笑みました。

「山大生の元気と能力を最大限に引き出したい」。そう思った思いから、私は人文学部教授の立松潔さんの協力の下に、学生にしたいことをさせ授業を運営させるという学生主体型の授業を開講しました。それは我々の予想をはるかに超えた教育効果を上げています。

今年度は、全学部から集まった四十人の学生が、ビデオ映画、演劇、音楽、総合芸術(詩、絵、写真)、お笑い、ディベート劇の六つの班に分かれて創作活動を行いました。そしてその総まとめとして、八月二日に山形市の遊学館のホールを借



経験を積んでいきました。

授業に人間ドラマなど生まれません。あつたとしたら授業が進まずに困ってしまいます。でも、この授業は、ドラマそのものです。仲間との軋轢あつれきと友情に溢れているのです。

冒頭の女子学生は、ディベート劇の脚本を受け持ちました。ディベートのテーマは「生きる権利、死ぬ権利」で、安楽死の賛否を問うものでした。彼女はこの当時、発表会の期日が迫ってくるのに、準備が進まないことに悩んでいました。

発表会が終わった後のカーテンコールでは、若者の最高の表情が見られました。それがこの授業のすべてを物語っています。山大生は元気でです。

(文責：教育学部 小田隆治教授)

りて、市民参加の有料の合同発表会を行いました。若者に足りないものの一つに経験があります。彼らはこの授業を通して、たくさんの方々の貴重な

夢に向かって！ 世界への登竜門「PMF」に参加！

教育学部 伊藤 絵美さん



ウィーン・フィル首席奏者(ピオラ)ハインリヒ・コル氏と

教育学部でピオラを学ぶ伊藤絵美さん(音楽文化コース4年)は、プロ奏者も応募するレベルの高いオーディションに合格、今夏、札幌を拠点に開催されたPMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)に参加し、

プロ奏者への第一歩を歩み出しました。PMFは、世界の若手音楽家の育成を図り、指揮者故レナード・バーンスタインの提唱で始まり、毎年7月に札幌を拠点に開催されている世界最大規模の国際教育音楽祭で、約1カ月間、ウィーン・フィルの首席奏者等世界一流の音楽家の指導を受けながら、札幌の他、東京・横浜などでも演奏を行いました。期間中はほとんど英語でのコミュニケーション、自分の気持ちをうまく伝えることができなくて歯がゆかったという伊藤さん。「英会話も勉強して来年も挑戦したい!!」

PMFに参加して

教育学部四年 伊藤 絵美

六月三十日、開催地である札幌に到着しました。翌日にはシューティングオーディションがあり、一人一人のレベルの高さに驚きました。それが、一つのオーケストラになり、マーラーやシュトラウスを演奏した時は鳥肌が立ちそうになりました。ウィーン・フィルの先生方を始めたくさんの方々にオーケストラや個人レッスン、アンサンブルのレッスンをしていただき、また、食事にもこ



一緒にさせていただき、オーケストラや音楽について様々な話を聞くことができました。毎晩のように行われた先生方の演奏会もとても素晴らしい、そして何よりも勉強になったのはその先生方と共演できたことです。それは、技術として、感性として、私の中に少しでも取り入れることができましたのではないかと思います。今回PMFに参加し、感じ、学んだことを生かし、また励みにして、プロ奏者への夢に向かって頑張りたいと思います。ご助言ご指導くださった先生方から感謝申し上げます。

山形大学各種催事案内 (平成14年10月から12月まで)

1 附属博物館特別展

「明治の記憶 ー三島県令道路改修記念画帖をひもとくー」
開催期間：10/21(月)～10/30(水) 10日間 (9:00～17:00)
開催場所：附属博物館 (山形市小白川キャンパス 附属図書館内)

本学附属博物館所蔵の「三島県令道路改修記念画帖」(高橋由一作)は、本年5月に「山形県指定有形文化財」の指定を受けました。

本作品を展示するとともに、この画帖を生み出した二人の人物、注文主である山形県初代県令「三島通庸」と、制作者である洋画家「高橋由一」についても取り上げ、画帖の作られた背景にせまります。



「山形県庁の図」

2 公開講座

(1) 山形から考える戦争と平和ー「9.11」以後の国際社会と私たちー (人文学部)

開催期間：10/5(土)～26(土)
毎週土曜日 14:00～16:00 計4回

開催場所：山形市 人文学部
受講対象者：一般市民・学生・高校生30人
受講料：5,800円 (高校生は無料)

(2) 映像とことば (教育学部)

開催期間：9/28(土)～10/26(土)
毎週土曜日 15:00～17:00 計5回

開催場所：山形市 教育学部
受講対象者：一般市民30人 受講料：5,800円

(3) 生活に生かすカウンセリングの知恵 (教育学部)

開催期間：10/3(木)～31(木)
毎週木曜日 18:30～20:30 計5回

開催場所：山形市 教育学部
受講対象者：一般市民50人 受講料：5,800円

(4) やまがた・明治の風景を読み解く (附属博物館)

開催期間：11/2(土)～16(土)
毎週土曜日 13:30～16:40 計3回

開催場所：山形市 附属博物館
受講対象者：一般市民30人 受講料：5,800円

3 大学開放事業

・キッズ・エネルギー・シンポジウム2002

エネルギー・環境問題の重要性や、「熱」とは何かということ、体験学習を通して理解・興味を深めます。

開催期間・場所：10/12(土)
米沢市置賜総合文化センター・理科教室
参加対象者：小学生・中学生80人 小学4年生以下は保護者同伴
主な内容：・熱から電気へ ・みんなが電気をつかうとどうなるの？
・熱気球を飛ばそう など

4 大学祭

- (1) 「吾妻祭」 10/19(土)～20(日) 米沢市工学部
(2) 「八峰祭」 10/26(土)～27(日) 山形市小白川キャンパス
(3) 「農学部11月祭」 11/2(土)～3(日)(予定) 鶴岡市農学部

5 入学試験

- (1) 人文学部推薦入学 11/16(土) 山形市人文学部
(2) 人文学部第3年次編入学 11/23(土) 山形市人文学部
(3) 人文学部 (総合政策科学科) 社会人特別選抜
11/23(土) 山形市人文学部
(4) 教育学部 (学校教育教員養成課程学校教育コース・人間環境教育課程) 推薦入学 11/21(木) 山形市教育学部
(5) 教育学部 (学校教育教員養成課程教科教育コース・生涯教育課程) 推薦入学 11/22(金) 山形市教育学部
(6) 理学部 (物理学科) 推薦入学 11/18(月) 山形市理学部
(7) 医学部推薦入学 11/21(木) 山形市医学部
(8) 工学部 (Bコース) 推薦入学 11/14(木) 米沢市工学部
(9) 工学部 (Bコース) 社会人特別選抜 11/14(木) 米沢市工学部
(10) 農学部推薦入学 11/15(金) 鶴岡市農学部

6 教育学部フレンドシップ「おもしろ実験教室」

山形市総合学習センター

- ・11/9(土) (9:00～11:30)
「シャボン玉作りに挑戦しよう」小学生(3年生以上) 中学生30人
「光の万華鏡で遊ぼう」中学生20人
・12/7(土) (9:00～11:30)
「化学マジックに挑戦しよう」小学生(3年生以上) 中学生30人
(参加申込は、山形市総合学習センター (TEL645-6163) へ、電話で申し込んでください。募集人員になり次第締切です。)

7 バイオサイエンス・フォーラム2002 in 鶴岡

「テントウムシの不思議な世界」
「ジベレリンー日本で発見された植物ホルモン」
「ウナギの完全養殖を目指して：成熟機構の解析と応用」
日時：10/9(水) 13:30～16:30
場所：鶴岡市 中央公民館市民ホール

8 模擬裁判 (人文学部)

テーマ：「模擬裁判を通じて冤罪について考える」
開催期間：11/21(木)・22(金)
開催場所：中央公民館大ホール

お問い合わせは、山形大学総務部総務課文書広報係まで (023-628-4008)

編集後記

「みどりの樹」第十三号をお届けいたします。「みどりの樹」は、山形大学の教職員、学生から地域の皆様に向けたメッセージで、地域の皆様との双方のコミュニケーションを求め、山形大学の「気持ち」が込められています。双方のコミュニケーションとは、情報の送り手と受け手が相互に反応をフィードバックし合うようなやりとりを繰り返すことです。会社が自社製品をヒットさせるために行なう市場調査や、マンション建築のための説明会など、「組織や団体」と「関係する地域の人々」との双方のコミュニケーションは、意外に身近なところにあるようです。

一昨年、国は壮年期の死亡を減らし、高齢になって自立して生活できる「健康寿命」を伸ばすことを目的に、「二十一世紀における国民健康づくり運動」を策定しました。この運動はその後、全国都道府県さらに市町村毎の具体的な行動計画立案へと進んでいます。が、国民、都道府県民、市町村民の参加と主体的な活動を行政組織が支援することを基盤としています。特に各自治体では計画立案の段階では、地域住民が直接企画に参加したり、自治体がインターネットで計画案を公開して自由に意見をもらうなど、行政組織と地域の人々との様々な双方のコミュニケーションがとられました。山形県でも昨年、有識者による委員会での検討を経て「ゆとり都市健康づくり21行動計画」を発表しています。市町村の中にはすでに計画が完成したところもあります。

「みどりの樹」は地域の皆様が直接参加するところまでには至っておりませんが、山形大学に興味を持ち、目と耳と足を向けていただくきっかけを創る情報誌を目指しています。(広報誌編集委員会委員 小林淳子)

「みどりの樹」に対するご意見・ご質問等を、お気軽にお寄せください。お寄せいただいたご質問等には、本紙面に「皆様からのQ&A」コーナーを設けてお答えさせていただきます。

〒990-8560
山形市小白川町一丁目4-12
山形大学総務部総務課文書広報係
TEL 023-628-4008
FAX 023-628-4013
Eメール sombun@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

この「みどりの樹」は、インターネットでもご覧いただけます。
アドレス <http://www.yamagata-u.ac.jp>

「みどりの樹」は、3月・6月・9月・12月に発行する予定です。

